

ちよつとしい話

～ 如 月 ～

22年2月1日

早くも二月になり、旧暦の一月六日に「七草」を迎えます。七草と云えば勿論、^{もちろん}当山善入院の御本尊善光寺如来様と法縁を結べる日です。一光三尊善光寺如来様は一つの光背の中に三躰の佛様が安置された形です。右に観音様、左に勢至菩薩様を従え衆生の濟度^{さいど}（救済）をして下さいます。勢至菩薩様は智慧を司^{つかさど}る佛様です。この智慧は世の中を上手に泳ぎ渡る知恵の事ではありません。正しい道（八正道）を歩む為に必要なとなる智慧です。八正道については第34号を参照して下さい。人は常に何らかの病の中に身を置いていると言っても過言^{かごん}では無いと思います。毎日がこうすれば、ああすれば、果てはこうしておけば良かった。こうすれば良かった。何でこんな事に成ってしまったのか、あれこれ迷いの中に沈んでしまう事の多さに溜息^{ためいき}がでるものです。これ等も全て一種の病なのです。ですから我々の毎日は病との闘^{たたか}いなのです。こうした病に打ち勝つために日頃から信心堅固にして観音、勢至、両菩薩のお力添えを願い人生の指針に間違いが少なくて済むように心掛けていくべきです。身体に病を抱える人にとってはなぜ自分が病に罹^{かか}ってしまったのか外傷以外は分けの分からない事が多く、唯、悩む事になります。そして苦しい状態が続くと、人間は都合よく、この世には「神も佛も」無い。と言う言葉を口に出します。果たして此の人は常日頃より神仏を信じ、心を運び、供物を献上^{けんじょう}し、経を誦^{きょう}誦し、祈りを捧げていたのであろうか、自分は些^{いささ}か疑問に思うのであります。身勝手な御都合主義を唱える人が「神も佛も」無いと、言っている様に思えるのです。神仏は便利屋ではありません。昔から誰でも苦から逃れたいものです。お釈迦様は八方で色々な苦に悩む人々を見て、国王と言う優雅な生活を捨て、出家し修行に入られたのです。そして仏教と言う宗教を立ち上げ、佛様の教えを以って人々の悩み苦しみを聞き、解決の方法をお示しに成ったのです。お経は色々な出来事に佛様がお答えになった内容が説法として受け継がれてきたのです。現在も各宗派で僧侶達が誦誦讚歎しているのです。{七草法要で阿弥陀様の護符を頂き、病の一つでも消して頂ければ幸いです。[ああすれば、こうすれば、良かったと心残りでも今日も暮れ行く、南無讚陀] おてやわらかに} 合掌

善壽界善入院 油掛地藏尊